



卒後2年目事例検討 ～実践につなげる事例検討～



卒後2年目63名が事例検討研修を受講しました。グループワークで「患者との忘れられない場面」「心に残っている事例」を根拠に基づいて分析することで、自己の課題が明らかになりました。研修者は、患者像を深めるために情報を共有したり、体験したことやその時の感情を率直に表現することで、自分自身の看護観に気づくことができました。



グループワークを行うことで、新たな視点での気づきや学びを得ることができました。



患者を全人的に捉え、強みや気がかりに働きかけることの重要性を再確認しました。



同じような場面で悩んだり、困っていることを共有しました。



患者が疾患をどのように捉えているのか、目標としていることは何かを知ることが重要であると学びました。

全体会では各グループでの学びを共有しました。意思決定支援、患者の思いを捉えた看護、患者との信頼関係の重要性について意見交換が行われました。

